母と娘

特別に用事が有る訳じゃないけれど
側にいたくなる
筑前煮の煮かた教えてとか
デパートの催事場に水羊羹があったとか
そんな理由をつけて母の顔を見に行く
あっという間に帰りの時間になる
「また来るね」と私
「気をつけて帰るのよ」と母
門の前で手を振る母に
もう二度と会えない気がして涙が出る
曲がり角を曲がりもう一度引き返す
まだ母は立っていた

子どもの頃の夏休み
母の実家に里帰り
祖母の側にはいつも母がいた
かまどであられを炒る二人

洗濯物を畳む二人
ニワトリ小屋の掃除をする二人
母は祖母の娘に戻っていた
「また　おいな」（また　来なさい）
腰の曲がったもんぺ姿で祖母は言う
お土産は炒ったあられとゆで卵
そっと涙を拭いた母の細い指
あの時の母は今の私

「実家はいいな。なんたって親飯（おやめし）
は最高」
娘が孫娘を連れてやって来た
「いつでもいらっしゃい。ここはあなたの家
だから」
母と娘の幸せの時間